

RRD X-FIRE Ltd V2



勝つことだけを意識したレーシングマシン

PHOTOS : JOHN CARTER / PWA

フィアン・メイナードの活躍を支えるX-FIREが、実践からのフィードバックを元にリニューアル

RRDは昨年、PWAのスラロームシーンにX-FIREを投入。フィアン・メイナードが駆り年間ランキング2位とポテンシャルの高さを示した。そのX-FIREのニューモデルは昨年のうちにラインナップされるサイズと、その中から112のみ先行して発表され期待が高まっていたが、ついに全てのラインナップが揃った。フィアンを中心としたR&Dチームによる実践からのフィードバックによりアウトラインやボリュームバランスに改良を加え、さらに高い戦闘力を持つボードとして登場だ。X-FIREが90、105、120の3サイズだったのに比べX-FIRE Ltd V2は80、90、102、112、122、135の6サイズにラインナップを増やし、あらゆる風域に対応するようになった。最新のレースシーンにおいて勝つことだけを意識した最強のレーシングマシンだ。



X-FIRE V2	80	90	102	112	122	135
全長(cm)	235	240	235	235	230	230
最大幅(cm)	54	59	65	69.5	77	85
ボリューム (ℓ)	80	90	102	112	122	135
重量(kg)	5.2	5.7	6.4	6.5	7.4	7.9
適応セイル	5.0-6.5 (slalom)		5.5-7.0		6.0-7.8	
フィンボックス	5.8-7.4 (speed)		7.0-8.4		7.8-9.5	
税込価格	TUTTLE ¥281,400					

IMPRESSION / J117 大坪大輔



X-FIREの特徴を教えてください。

一番の特徴はオーバーセイル下の極限状態でもセイルを引き込むのが怖くないということです。ノーズが浮きすぎること無く、めくれることも無いのでオーバーセイルで楽に感じるんです。それでいて、アンダーセイルが弱いわけではありません。むしろ乗った感じはボリュームの数値よりも大きく感じで、浮きが強いのでもむしろアンダーで良く走ります。それでいて吹いたら小さく感じてオーバーボリュームになりにくい、そんなボードです。

チューニングする上での注意点は？

ジョイントボックスのアジャスト域がやや長めです。その中でもポジションは少し前よりセットすることをお勧めします。真ん中より後ろにするとノーズが浮きすぎてスピードがのびません。

大坪大輔 J-117

2008年アマチュアスラローム選手権での優勝機にプロとしての活動を開始し、ジャパンサーキットはもちろんワールドカップにも積極的に参戦。チームWIMの一員としてRRD、プロラインプーム・ジョイントのテスト・開発を行う。

ジャイブは？

ターンの入りで強めのプレッシャーをかけるようにした方がいいです。ターンに入ってしまうと、しばられたテールの効果で実にスムーズに回ってくれます。コントロールが利くので実践向きですね。

オススメのポイントは？

昨年モデル同様、初速からトップスピードまで爆発的な加速を持つ一方でコントロール性が高いので、特にチョッピーな海面で乗ってもらえれば、乗り手に優しく、乗りやすいからこそ速いを実感してもらえらると思います。

一つのボードがカバーする風域が広いので、最小限のラインナップでレースに臨めることは選手にとって大きなメリットですが、一般のセイラーにとってもいいと思います。レースセイル以外のフリーライド系セイルにも対応できますし、乗りやすく速いボードをぜひたくさんの人に味わって欲しいと思います。

モデル	セイル	フィン
90	5.0-6.5	30-34
112	6.5-8.0	36-42
122	7.5-8.4	38-44
135	8.0-9.2	42-47

大坪プロが実際にレースで使用することを想定した各モデルのセイルサイズとフィンサイズ。メーカー推奨のサイズに比べやや小さめのセイルが選択されている。より高い風域で躊躇無く使用できることの表れだろう。